

ICTの提供による社会の持続可能性と生物多様性への貢献

TeamCloud/CM POSと入出金機連携による消費電力の削減

富士通グループのSDGsへの取り組み

2015年に国連で採択された持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals : SDGs）は、世界全体が2030年までに達成すべき共通の目標です。富士通のパーパス「イノベーションによって社会に信頼をもたらし、世界をより持続可能にしていこう」とは、SDGs達成への貢献を社内外に約束するものです。富士通は、長年にわたりテクノロジーを通じて社会に価値を提供してきたグローバル企業として、社会の変革に主体的に貢献する責任があります。世界をより持続可能にするために、社会に対して、より良い、かつスケールの大きなインパクトを与え、自社も持続的に成長していくことを目指しています。富士通は、2023年5月に発表した中期経営計画において、2030年に向けた価値創造の考え方を示しました。必要不可欠な貢献分野（マテリアリティ）の「地球環境問題の解決」「デジタル社会の発展」「人々のウェルビーイングの向上」への取り組みを通じ、SDGsへの貢献を目指します。

<https://www.fujitsu.com/jp/about/csr/sdgs/>

持続可能な開発のための2030アジェンダ

「持続可能な開発目標」(Sustainable Development Goals : SDGs) を中核とする「持続可能な開発のための2030」は、平成27(2015)年9月25日に、ニューヨーク・国連本部で開催された国連サミットで採択されました。

SDGs(Sustainable Development Goals)

2030年に向けて持続可能な開発に関する地球規模の優先課題などを明らかにした目標です。17の目標と169のターゲットで構成されています。ミレニアム開発目標（Millennium Development Goals : MDGs）とは異なり、先進国を含む全ての国に適用される普遍性が最大の特徴です。

環境との関連

複雑に絡み合う社会・環境課題に対応していくためには、環境・経済・社会の3つの課題を総合的に取り組む必要があります。環境省では、17の目標のうち、気候変動、持続可能な消費と生産（循環型社会形成の取組等）等、少なくとも、12の目標が環境に関連しているとしています。

ICTによるSDGsへの貢献

富士通グループは、クラウドシステム、モバイルコンピューティング、電子政府など、様々なICTの提供を通じて、国内外のお客様とともに、SDGsへ貢献してまいります。



「環境貢献ソリューション」認定制度のご紹介

富士通は、富士通グループが提供するソリューション・サービスの導入によるGHG排出量の削減効果を定量評価し、削減効果が15%を上回る商品を「環境貢献ソリューション」として認定してきました。現在もGHG排出量の削減効果を算定し毎年報告しています。

<https://www.fujitsu.com/jp/about/environment/sustainability-contribution-list/>

環境貢献

検索



環境貢献ソリューション

TeamCloud/CM POSと入出金機連携による消費電力の削減

「TeamCloud/CM」は「現金管理業務の効率化」「管理体制のシステム化」をクラウドで実現する、月額現金管理運用サービスです。従来店舗から本部へ1日の取引データを送信するため閉店後も親POSの電源をONのままにする必要がありましたが、当サービスは入出金機がデータ送信を行うため、閉店後は親POSの電源をOFFにすることが可能になります。結果として、店舗における使用電力を削減でき、CO₂排出量の削減につながります。

「環境貢献ソリューション」の提供により、SDGsへ貢献します。

「環境貢献ソリューション」の取り組みは、目標13：気候変動へのアクション（気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる。）への対応として、推進しています。富士通グループは、「環境貢献ソリューション」の提供を拡大し、SDGsに貢献します。



気候変動に具体的な対策を

TeamCloud/CM POSと入出金機連携による消費電力の削減

システム概要

「TeamCloud/CM」は「現金管理業務の効率化」「管理体制のシステム化」をクラウドで実現する、月額現金管理運用サービスです。

従来、店舗における1日の売上等の取引データを本部へ送信する場合、閉店後も本部のサーバと通信を行うために親POSの電源をONのままにする必要がありました。「TeamCloud/CM」では、入出金機がリアルタイムでPOSから取引データを取得、本部へ送信できるため、閉店後は親POSの電源をOFFにすることが可能になります。

これにより、POSの使用電力を削減、節電に寄与します。結果として、店舗から排出されるCO₂の削減にもつながります。

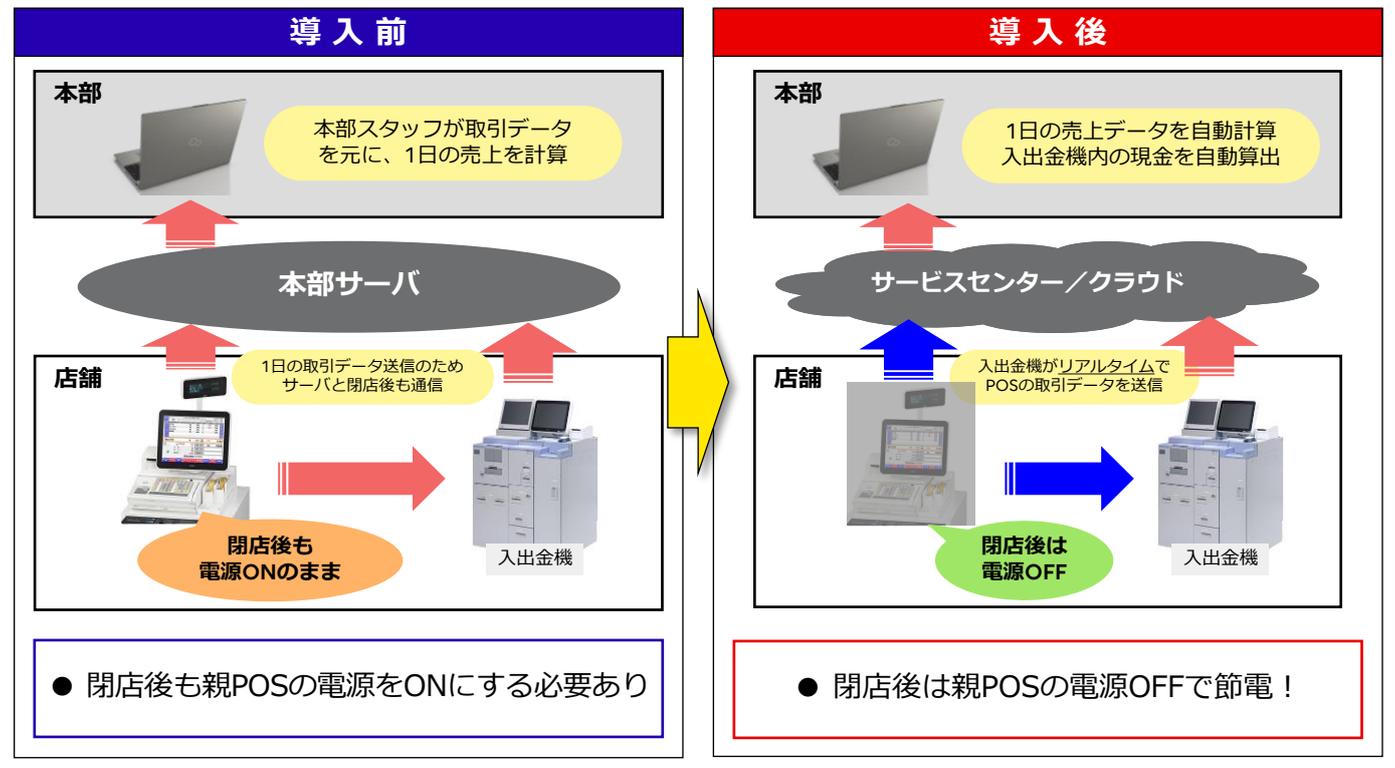
効果

- ・ CO₂排出量の削減効果：約38% ※富士通フロンテック試算
- ・ 親POSの使用電力の削減 ※閉店～開店までの時間を9時間とし、計1,700台（1店舗につき1台）で試算
【導入前】消費電力量 約745MWh/年（24時間/日、365日使用）
【導入後】消費電力量 約465MWh/年（15時間/日、365日使用）
⇒結果、約280MWh/年の削減

※上記の効果は、現時点で富士通フロンテックが試算したものであり、システムの特性により結果が異なることを予めご承知おきください。

TeamCloud/CM POSと入出金機連携により、何故、使用電力が削減されるのか？

- ◎ POSの取引データを入出金機経由でリアルタイムにクラウドサーバへ送信するため、閉店後に親POSの電源をOFFにすることが可能になります。



お問い合わせ先

富士通フロンテック株式会社

サービス事業本部 第二サービス事業部

Webによるお問い合わせ： <https://www.fujitsu.com/jp/group/frontech/contact/>